FEATURE

01 「シワを改善する」医薬部外品の現状と有効成分レチノールの改善効果

大田 正弘*1

1. シワ改善薬用化粧品に対する生活者の認識と市場変化

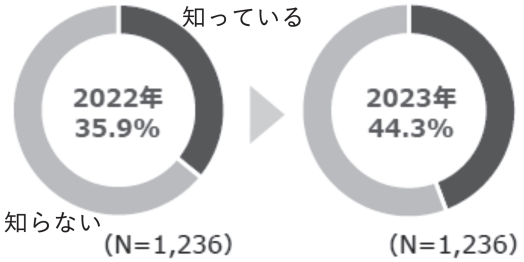
「シワを改善する」効能が医薬部外品（薬用化粧品）で訴求できるようになってから早7年以上が経過した。我々化粧品技術者や化粧品業界にとってこのような訴求表現は周知の事実であるが，市場分析調査から生活者の認識とは大きく乖離がある。図1[1)]に示すように「シワを改善する」効能訴求をできる薬用化粧品（以下，「シワ改善薬用化粧品」と示す）の認知度は2022年から2023年にかけて増加しているが，2023年度はまだ半分にも満たないのが現状である。また使用率も同年の比較で増加しているが，11.6%に留まっている。このような現状から，生活者の認知向上や使用率の増加の余地は大いに見込まれる。アンチエイジング化粧品の訴求別販売高の構成比に着目すると，シワ改善薬用化粧品は2020年から2023年にかけて構成比率を著しく高め，売上高は4倍以上と飛躍的に増加した（表1[1)]）。このような市況に鑑みても今後のシワ改善薬用化粧品の成長は大いに期待される。

2. 現在薬事承認されているシワ改善薬用化粧品の有効成分について

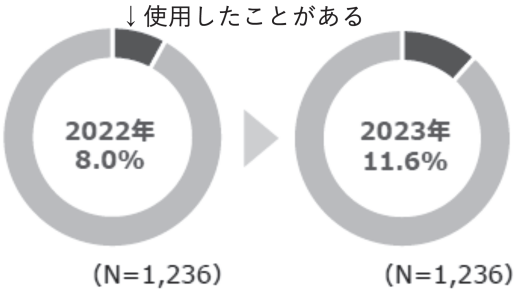
通常，薬用化粧品の薬事開発におけるホ項の「ヒトにおける使用成績に関する資料」は，各申請者が独自の評価方法で有効性試験を行い，個別審査の中で承認審査が行われている。したがって承認後，同じ効能訴求であっても個々で評価方法が異なることからそれぞれの有効成分を比較する

■図1　シワ改善薬用化粧品について生活者の認知度と現在の使用率

「2023年アンチエイジング化粧品の市場分析調査」より抜粋（一部改変）



(a) 生活者の認知度



(b) 現在の使用率

ことは不可能であった。一方「シワを改善する」効能訴求においては，これまでに承認されている5つの有効成分は，いずれも日本香粧品学会が策定した「新規効能取得のための抗シワ製品評価ガイドライン」[2)]（以下，「抗シワガイドライン」と略す）に基づいたものであることから，同じ基準に則って実施されている。特に視感判定は抗シワガイドライン中，図2に示すようなシワグレード標準写真に基づいて行われていることから比較が可能であると考える。とはいえ視感判定者は異なり同時に評価しているわけでなく，またプロトコールは同一ではないことから完全な比較はできない。よってそのような点を考慮に入れつつ，これら5つの有効成分はある程度の比較は可能である

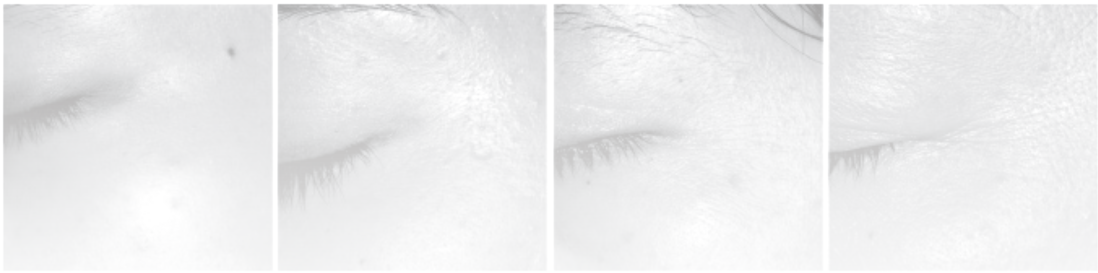
■表1　アンチエイジング化粧品の訴求別販売高

「2023年アンチエイジング化粧品の市場分析調査」より抜粋

訴求＼年	2020			2021			2022			2023（見込）		
	売上高	構成比	前年比	売上高	構成比	前年比	売上高	構成比	前年比	売上高	構成比	前年比
全体	393,000	100.0	94.4	402,000	100.0	102.3	402,000	100.0	100.0	407,000	100.0	101.2
ハリ	305,700	77.8	93.2	284,100	70.7	92.9	232,200	57.8	81.7	224,100	55.1	96.5
シワ	41,100	10.5	132.8	74,100	18.4	180.3	126,700	31.5	171.0	140,100	34.4	110.6
シワ改善	32,300	78.6	150.6	63,800	86.1	197.5	116,200	91.7	182.1	130,000	92.8	111.9
その他シワ	8,800	21.4	92.6	10,300	13.9	117.0	10,500	8.3	101.9	10,100	7.2	96.2
シミ・くすみ	27,500	7.0	81.6	27,000	6.7	98.2	26,600	6.6	98.5	26,000	6.4	97.7
たるみ	18,700	4.8	78.2	16,800	4.2	89.8	16,500	4.1	98.2	16,800	4.1	101.8

■図2　抗シワガイドラインにおけるシワグレード標準

日本香粧品学会誌 30(4), p318 (2006)より抜粋



グレード 0
・シワは無い

グレード 1
・不明瞭な浅いシワが僅かに認められる

グレード 2
・明瞭な浅いシワが僅かに認められる

グレード 3
・明瞭な浅いシワが認められる

これ以降の閲覧を希望の場合は、本誌をご購読ください。